

8月4日に幼小合同研修会を開催しました

架け橋プログラムを進めていくには、子どもに関わる大人同士の連携が欠かせません。市では保育・幼児教育施設と市立小学校の職員の交流の場として、毎年8月に「合同研修会」を開催しています。



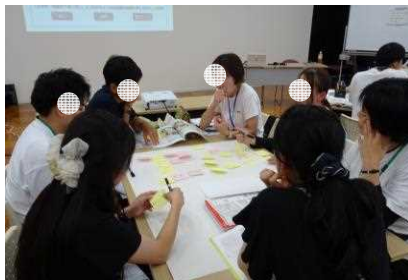
今年度で3回目となる幼小合同研修会は、幼児教育と小学校教育の職員が一堂に会し、テーマを基に語り合うことを通して、互いの教育について学び、相互理解を図ることを目的として実施しています。

今年度も各校区から、多くの職員が参加しました。



【テーマ】主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

校区を中心にしたグループに分かれ、小学1年生の教科書(生活科・図工)を見ながら、幼児期の経験や学びを生かし、子どもの「主体的・対話的で深い学び」を引き出す授業づくりについて考えました。



【グループワーク】

幼児教育・小学校教育それぞれの立場から、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてどうしているか、どうしたらよいかについて、付箋に書き出して模造紙に貼り、それぞれの意見を共有しながら、どのように授業を展開していくか、まとめていきます。

【意見共有】

グループでまとめた意見は、発表して皆で意見を共有しました。

子どもが遊びの中で経験してきていることを生かした、様々な授業のアイデアがありました。



講師である大阪総合保育大学の瀧川光治教授からは、「このように、幼小の職員が集まり、授業内容について具体的に深く語り合う研修は先進的で意義があり、今後もぜひ継続していただきたい。」との助言をいただきました。

研修会では、学校、幼稚園、保育所、認定こども園等の職員のかたがたが、それぞれの立場や経験を生かしながら、子どもの育ちや学びについて一生懸命に考え、真剣に話し合う姿がとても印象的でした。

日々の立場や現場が違って、子どもたちの育ちを願う気持ちは皆同じです。これからも、垣根を越えて力を合わせていきたいと感じる研修会となりました。